

3 形容詞と動詞を中心とした遊び方

いままでの遊びのなかで示された漢字は、ほとんどが名詞でした。といっても、実際には、名詞だけで遊べたわけではなく、お話のなかや、歌のなかでそれに付随して様々な言葉が用いられていたはずで、「漢字」として示されなくても、子どもはそれを耳にし、十分に理解し、自らも色々な場面で使っているわけです。

象のお鼻は“長い”。この場合“長い”という言葉の意味は、漢字を知るまでもなく、子どもが蓄えた語彙(ボキャブラリー)のなかに入っているのです。ですから名詞から始めたといっても、ある時点でブツンとそれを切り捨て、次に“形容詞”へというふうにしていくわけではありません。名詞が他に比べ、具体的でなじみやすいため、そこからスタートしただけのこと。たとえ幼児にでも、言葉はあくまで社会で使われているままの形で提示されなくてはならないのです。漢字が形容詞や動詞に移るからといって、名詞がそこで使われなくなるわけではありません。そののところが理解していただいて次の遊び方に入っていきます。

信号ごっこ

「赤い、黄色い、青い」の三つの色を、信号を通して漢字で示してみるものです。普段の生活のなかで、たとえば「信号が赤だから道路をわたってはいけません」というようないい方で、子どもは信号と赤(黄色、青)との関係、その色がどんな色か、などはすでに十分承知していることでしょう。その“なじみある”色を漢字で読ませてみるだけのことです。

信号の形を紙に囲って、そこに色を付け、漢字カードを見せながら、「これが赤、これが黄色……」と示せばいいわけです。と同時に、交通ルールについて少しお話をしてやりましょう。信号とその色の意味がより一そうわかることでしょう。

色の形容は、別に信号だけにこだわる必要はありません。いくらでも例は出てきます。「苺は赤い」「牛乳は白い」「髪の毛は黒い」……。折にふれ漢字カードで示してみてください。

組み合わせ遊び

名詞と、形容詞あるいは動詞を組み合わせで遊んでみましょう。「山は高い」「雨が降る」といった具合に。ここで注意したいのは、とくに形容詞の場合、漠然と「大きい、遠い、明るい、低い……」などと示さな

いで、“対”になるような方法 「大きい 小さい、遠い 近い」 でカードを読ませてみる事です。これは 組み合わせ遊び の次にくる 反対語ゲーム の伏線になるのですが、 “対”にして遊んだ時の言葉の持つおもしろさ、楽しさが浮き彫りにされ、興味が増すからです。

(例) 形容詞

山は高い

谷は低い

自動車は速い

三輪車は遅い

夏は暑い

冬は寒い

(例) 動詞

服を着る

服を脱ぐ

赤ちゃんが泣く

赤ちゃんが笑う

朝 起きる

夜 眠る

もし、形容詞や動詞の漢字に親しみにくい場合には、前の例のような普通名詞を使う前に、固有名詞を使って、より身近な雰囲気のみかたで遊んでみるのもおもしろいでしょう。

(例)

富士山は高い

新幹線は速い

お父さんの手は大きい

お母さんの手は小さい

お友だちの ちゃんが好き

<組み合わせ遊び>の“レパートリー”が増え、慣れてきたら、子ども自身にやらせてみましょう。組み合わせが十種類くらいになるようにカードをバラバラにしておきます。ヒントを与えながら、組み合わせるようにカードを拾わせてみましょう。

反対語ゲーム

高い 低い、甘い 辛い、長い 短い、行く 帰る、泣く 笑う...
...など反対の意味を表わす漢字で遊びますが、単にカードを見せて読みあげるだけでなく、まとまったお話のみかたで、子どもにとって印象

に残る方法で試みるとより効果的です。たとえば、子どもが幼稚園や学校で、身体測定、健康診断などを受けたりしたら、それを題材にしてみます。

(例) 健康を題材に

- (1) 食べものの好き嫌いが健康にとって**良い**のか**悪い**のかを話します。
- (2) 体重測定のことで、**重い** **軽い**の意味を話し合ってみる。
- (3) 視力検査のとき**右**の目と**左**の目ではどちらが良く見えたのか、などを引き合いに出して、「右」と「左」の意味について話し合ってみる。

カードをバラバラにしておいて、“対”になるように拾わせてみたり、お母さんが何枚かのカードを持ち、たとえば「高い」のカードをサッと見せ、子どもが「低い」のカードを探し出す、といった遊び方もできます。

いろいろな“対”のカードを使っていると、子どもにとって少しわかりにくく混同しがちなものも出てくるかも知れません。「大きい」と「多い」、「小さい」と「少ない」、「早い」と「速い」などがその代表例でしょう。

そのさい、あまり言葉の意味自体に深入りせず簡単に答えておきましょう。「象は大きい、蟻が多い、朝起きるのが早い、自動車は速い」と、文章にして例示する方がわかりやすいものです。

同音異義語でお話づくり

ここでは、子どもが混同しがちな漢字をむしろ積極的に使って遊んでみます。やはり言葉そのものの意味や意義にとらわれず、文章として理解させるため、ごく短いお話をつくったりつくらせたりして楽しんでみましょう。

(例)

朝起きて**厚い**パンを食べました。

夏のお日さまはとても**暑い**です。

熱いお湯には気をつけましょう。

おもちゃを**買う**のはうれしい。

小鳥を**飼う**のは楽しい。

「泣く」と「鳴く」、「切る」と「着る」なども、こんなふう to 遊んでみましょう。